

カンボジアにおける救急医療に関する参加型人材育成と教育研修体制整備事業

カンボジアは、経済成長に伴うモータリゼーションによる交通事故の増加やCOVID19によって救急医療ニーズが高まり、全土に多くの救急車両が配置されたが、救命率向上や予後の改善のためには、持続可能な質の高い救急医療が提供できる人材の開発が重要である。特に、病院前救急医療に関する教育研修機関のない同国においては、指導者育成による職場教育の充実強化、及び新たな救急隊員の教育研修機関の整備が不可欠である。

本事業の目的は、これまでの取り組みで培った社会関係資本を基底として、カンボジア保健省、国立国際医療研究センター病院、国土舘大学等の多様な主体のパートナーシップにより、同国の病院前救急医療にかかわる指導者の育成(Training of Trainers: TOT)を推進するとともに、日本における病院前救急医療に関する教育研修機関の視察等を通して、同国における教育研修環境の整備の一助とするものである。

具体的には、カンボジアでの国際協力経験を有する日本人専門家を派遣し、保健省職員やこれまでに育成した現地指導者と協働して、国立4病院、国立保健科学大学等において病院前救急医療を担当する医師等に対して、教育技法を含めた現地研修及び本邦研修を実施するとともに、日本の病院前救急医療に関する教育研修体制について本邦研修を行う。併せて、今後の展開に不可欠なレジストリに関し調査及び準備を進める。

これらによって、新たな現地指導者が育成され、教育研修機関での教育研修の実施により、持続可能な質の高い救急隊教育が期待される。

